

# 東日本大震災 全日本民医連支援ニュース

現地の仲間・住民と連携し「民医連ここにあり」の心意気でともに力を合わせて頑張りましょう！

NO. 14 2011.3.21 15:00 発 全日本民医連対策本部

Mail : taisaku-honbu@min-iren. gr. jp

## ◇岩手への支援を開始！！中・長期の支援に備えよう◇

18日より、藤末会長・大河原次長・林次長・遠藤次長が岩手に入りました。実情をつかむとともに、県保険医協会(会長)、県医療局労組連(書記長)、県医師会(会長)、らとの懇談を行いました。被災地の様子は、筆舌に尽くし難い状態、まさに「原爆投下後のような」光景です。医療も、物資も不足しており、民医連から中・長期にわたる医療支援は大変ありがたいとのこと。早急に支援を開始しようと、大河原次長が急遽現地に残ることになりました。その後は非常駐次長の力も借りながら、現地の体制を確立していきます。

民医連としては、当面、大船渡の民商事務所を拠点に支援します。北海道・青森・秋田・岩手の仲間が支援に入ることとし、すでに支援が開始されています。☆坂病院と塩竈・多賀城の避難所も、引き続き支援が必要な状況です。当面は、上記以外の県連はこれまで通り、坂病院に集中という方針です。

＝視察報告から＝

＜大船渡＞

県立大船渡病院附属地域医療センターでは大半の職員が家を流され、家族が行方不明に。車が流され、移動手段がない。開業医で診療継続できる場所は半分くらい。会長・副会長も被害にあっており、まとめ役がいない状況。民商から100m程離れたところから、瓦礫の山となっている。

＜陸前高田＞

市の職員80名が死亡、自治体機能もままならない。ガソリンがない。済生会、日赤、徳洲会、などから医療チームが入っている。今後1～2週間はこの体制が維持されるだろうが、各地から支援の手が引き始めた後の対応が課題。

今回の被害は甚大かつ広範囲にわたっています。全国の各団体が支援に入っています。横のつながりを大切に、協力し合って支援の輪を広げましょう！

## 福島原発事故を受け緊急に「原発事故対策本部」会議開催！

3/19(土)、緊急に原発事故対策本部会議を開催しました。

\* 本部長: 小西副会長      \* 副本部長: 藤原被ばく問題委員長  
\* 顧問: 間間医師(静岡)、齋藤医師(福島)      \* 事務局長: 花岡理事

現時点の状況では、現地で直接作業にあたっている人を除いて急性被曝の可能性はなく、低線量被曝についてもほとんど懸念する必要はないレベルで、支援にあたって被曝の心配はありません。若い人はヨウ素剤の準備(被曝のおそれある時に服用すること)など、これまでの方針に沿った準備で十分と考えます。(もちろん、あらたな爆発などの局面を迎えれば判断は変わります。)

避難勧告されている圏域(原発から20km以内は避難、20km～30kmは屋内待避)から、多くの住民が近隣の県に避難しており、その方たちの健康管理、生活支援が今後の課題となります。

3/27、原発事故対策本部が現地に入り、状況把握と今後の支援について検討します。

## 医学生の支援について

医系学生の支援希望が出ています。ぜひ積極的に送り出したいと思いますが、現地の状況や危険性についてきちんと説明した上で参加してもらいましょう。下記の点にご留意ください。

- ・現地はまだ余震が続いています。受け入れ体制も十分確立しているとはいえません。
- ・現時点では、支援者が被曝する懸念はありませんが、原発の状況に留意が必要です。
- ・学生の支援については、必ず医学対、看護対などの職員が同行するようにしてください。
- ・未成年者の支援については、必ず親の了解を得てください。

支援者到達：約730人(医師は160、看護師・事務は各220以上!)！述べ人数3,000を超えました！

## ◇全日本民医連支援ニュースの活用をお願いします◇

☆状況は刻々と変わります。各県連におかれましては、各事業所にリアルタイムに転送をお願いします。